

(平成 30 年 8 月試験研究業務月報)

試験研究課題：沿岸漁場環境のリアルモニタリングによる温暖化の影響評価

(漁場特性の研究)

情報

急潮^{※1} モニタリング研究集会で情報を入力

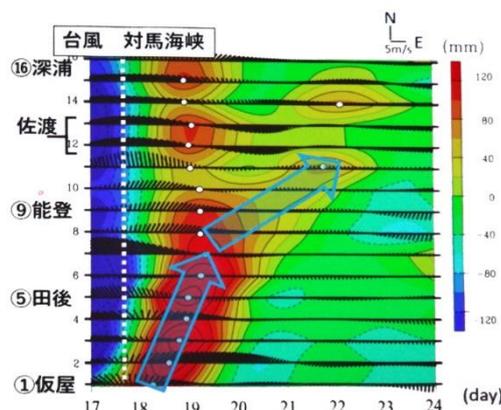
8月2日と3日に九州大学応用力学研究所（福岡県春日市）において「日本海及び日本周辺海域における環境急変現象（急潮）のモニタリング、モデリング及びメカニズム解明に関する研究集会」が開催されました。急潮の発生原因については依然として不明な点も多く、漁具被害^{※2}を軽減させるためには、発生事例やその解析結果を多くの機関で共有していくことが重要です。

同会議では、若狭湾に発生する直径数十 km 程度の巨大な海流渦や、対馬への台風の接近による日本海沿岸の潮位の変動等、京都府沿岸の急潮発生に影響を及ぼす新たな要因についても発表がありました。

当センターでは、引き続き大学や近隣県と連携しながら、急潮の発生メカニズムについての知見を蓄積し、今回発表のあった新たな要因についても留意しながら、急潮の予測精度をさらに向上させ、漁具被害の防止に努めていきます。

※1 急潮：漁具を壊す恐れのある突発的な速い流れ。概ね 1 ノット（秒速 50 cm）以上

※2 H29 年度台風 21 号による急潮被害額は約 455 百万円（府内主要定置網 20 か所）



日本海沿岸を高潮位（図の赤い部分）が伝播する様子
（山口県から能登半島まで約 1 日で伝播している）